

小柳よしふみの地域活動

2019年も地域とともに歩み、皆さまの声や想いを形にできるよう、頑張ってます!!

進路行事「職業を知る」の
ゲスト講師@県立庄和高校高校1年生の生徒たちに市議会議員の仕事を
紹介するとともに、職業について語り合った。

地域の防災訓練

地域の防災訓練に参加し、さい
たま市の取り組みや防災士とし
てのアドバイスをを行っている。浦和区民まつり・
浦和区防災イベント各会場を訪問するとともに、
同時開催の浦和区の防災イ
ベントの運営にも参加。地域の
餅つき大会地域の子どものためにボランティア
が集まった餅つき大
会は大盛況。プレーカー事業視察
@仙台移動車両によるプレー
パーク事業。子どもたち
が思いっきり遊べる環
境を増やす取り組み。スポーツシュレ
視察報告会地域の総合型地域スポ
ーツクラブにてオランダ・
ドイツのスポーツシュ
レの視察報告を実施。

仲町小・美園南中建設工事への影響 ～施工会社が破産!～

仲町小の教室増設のための増築、美園南中の新校舎の新築工事は、平成31年4月から供用開始の予定が、特定共同企業体の代表企業の経営破綻の影響で、工事に遅れが出ている。関連する文教、総合政策、まちづくり委員会による合同審査も行われた。現在、他の構成企業により工事が進行中で、仲町小は6月中旬、美園南中は2学期からの施設の供用開始の見込み。その間、仲町小は、特別教室を改修し普通教室に転用、美園南中は、美園中の特別教室の改修・転用と美園小にある仮設校舎を利用した分離開校となる異例の事態となる。来春に向けて、授業や課外活動への影響を最小限度に留めるよう対策が急務である。また、下請け業者の連鎖倒産を防ぐ手立ても重要と考える。

ご意見・ご要望を
お聞かせください

お名前

TEL

ご住所

第31回 市政報告会

【日程】平成31年1月27日(日)

【時間】18:30~19:45

【会場】北浦和カルタスホール 第1会議室

クイーンズ伊勢丹3階(北浦和1-7-1)

入場無料



市政へのご要望・ご質問は

小柳よしふみ 事務所

E-mail info@koyanagi.jp

ホームページ http://koyanagi.jp/

ブログ http://ameblo.jp/y-koyanagi/

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F

TEL:048-799-3232 FAX:048-799-3233



こやなぎ

小柳よしふみ

小柳よしふみ 事務所 〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233
E-mail info@koyanagi.jp ホームページ http://koyanagi.jp/ ブログ http://ameblo.jp/y-koyanagi/

小柳よしふみ

検索

市政レポート
2019.1 vol.33浦和が光れば、
さいたまが輝く!

～文教都市浦和のさらなる飛躍のために～

新たな気持ちで清々しい新年をお迎えのことと思います。皆さま一人ひとりの想いが成就する2019年になりますよう、お祈りいたします。また、「今年の漢字2018」が『災』であったように、去年は大きな災害が多発しました。新しい元号がスタートする本年は、災害も少なく心安らかに生活できる年であるよう、心から願います。

さて、政令指定都市移行から15周年を経て、新たなさいたま市としての充実・発展の道筋を示していく時期にきています。

この点、東日本の中核都市の拠点となる大宮には、大宮駅グランドセントラルステーション化構想、大宮駅周辺地域戦略ビジョンなどのグランドデザインのもと、都市再生緊急整備地域の指定、市民会館おおみやの移転を伴う大門町2丁目中地区市街地再開発事業、東日本連携支援センターの設置など、次々と取り組みがなされています。

一方で、都市構造の核となる2都心4副都心の「都心」に位置付けられている浦和駅周辺地区には、12月定例会の一般質問で指摘したように、まちづくりにおける長期ビジョンがありません。現在、浦和エリアは、さいたま市の中でも最も人口が増えている地域の1つです。それは、JR湘南新宿ラインの浦和駅停車による交通利便性の向上とともに、名実伴った文教都市浦和と生活都市としての評価によるものと考えます。これらは、旧市からの取り組みの産物である部分もあります。さいたま市の健全な成長のためには、浦和のまちが光り輝き続けることが必要です。浦和のさらなる飛躍のために、また子どもたち、孫たち世代のまちに責任を持つために、小柳よしふみは、これからも様々な取り組みを行い、提案し続けます。

本年も小柳よしふみの活動にご期待いただきますよう、お願い申し上げます。

TOPICS

統一地方選挙の
投票日は、4月7日

本年は、統一地方選挙の年です。さいたま市議会議員選挙などが行われます。また、7月には参議院議員(半数)、8月には埼玉県知事の任期満了を迎えます。期日前投票も含め、投票はお忘れなく。

浦和レッズ
天皇杯優勝

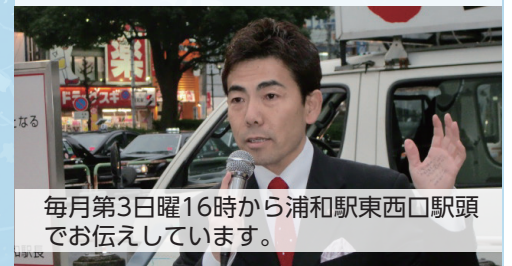
12月9日に本拠地・埼玉スタジアム2002にてベガルタ仙台に1-0で勝利し、12大会ぶりの天皇杯優勝。前身の三菱重工時代を含めて7度目となる。併せて、来季のAFCチャンピオンズリーグ(ACL)の出場権も獲得した。

さいたま市の人口
130万人超え

本市の人口は、昨年9月18日に130万人を突破。政令市移行から15周年という節目の年であった。12月1日現在130万1915人となっている。浦和区の人口は16万1996人で10区中、南区・見沼区に次いで3番目。



- 昭和40年(1965年)8月27日生まれ A型
- 浦和市立高砂小、岸中、県立浦和高、慶應義塾大学商学部卒業。
- 埼玉銀行を経て、警備会社を経営。平成23年よりさいたま市議会議員(浦和区)。
- 平成27年 浦和区にて第1位当選(2期目)。
- 文教委員会 / 決算特別委員会
オリンピック・パラリンピック競技大会
支援特別委員会



毎月第3日曜16時から浦和駅東西口駅頭
でお伝えしています。

さいたま市議会 12月定例会

小柳よしふみが 本会議一般質問に立ちました！

東京オリンピック・パラリンピックを控え、10年後20年後のさいたま市が、特長を生かした住みよい街であるために何が必要なのかをテーマに、議論を致しました。

1. 浦和のまちづくりビジョンについて

Q 浦和のまちづくりの将来像を描いたマスタープランの構築を進めるべきと考えるが、見解を問う。

A 地域の現状と課題を市民と共有しながら、未来の浦和駅周辺地区のビジョン構築に向けて検討を進める。今年度中に土地利用の動向や地域資源の抽出などの調査を始める。

小柳視点 浦和駅周辺地域のまちづくりには、30年近く前の旧市時代に策定された計画しかない。浦和の街の将来のために、これからのまちづくりの道しるべとなるマスタープランを描く必要がある。

2. 危険ブロック塀対策のための補助制度の創設について

Q 災害時に多大な被害をもたらす民地にある危険ブロック塀対策のための補助制度の創設を求める。

A 広く、市民が往来する公道などの安全確保が図れるよう、対象とするブロック塀の範囲や補助金の事業規模、市民の利用しやすさなどの精査をし、平成31年度からの実現に向けて制度設計を行う。

小柳視点 いつ起こるかわからない大地震に備え、民地にある危険ブロック塀の改修、撤去のための補助制度が20政令指定都市中、18市で実施、実施予定の状況の中、さいたま市としても来年度からの制度創設を明確にし、スピード感を持った対応を評価する。

3. 保育施設の質の向上について

Q 保育士が行っている雑務の負担軽減や、民間保育所における障がい児の加配の拡充が必要と考えるが見解を問う。また、小規模保育事業所の連携先の確保が課題となっているが、対策を求める。

A 保育の補助業務を行う用務員等への補助制度の創設や、民間保育所における障がい児を含めた受け入れ促進のための助成の拡大、専門知識等を修得する研修の充実を検討する。また、連携施設確保の調整役となる「(仮称)連携施設コーディネーター」を来年度に配置を検討。保育所の新設整備における地元との意見調整役としての役割も担う。

小柳視点 保育士が保育に専念できる環境を整えることは、保育の質の向上や就業継続に寄与する。また、民間保育所においては、軽度の障がい児2人につき1人の保育士の加配経費の助成を行っているが、重度障がい児の受け入れの必要性など実体と合っていない状況があり、改善が急務だった。

12月定例会より

【補正予算の特徴】

仲町小学校の校舎増築、美園南中学校の新築工事の遅延に関連して、来年度までの工事の延長に必要な予算措置や特別教室から普通教室への転用の改修費用やエアコン設置、分離開校に伴うバスの送迎代等の予算が承認された(裏面参照)。追加でかかる費用は、約4,708万円。また、老人福祉施設寿楽荘の工事と同じ受注企業の倒産の影響による工期延長に関する予算措置がなされた。

4. 駒場スタジアムエリアのスポーツタウンとしての活用について

Q 駒場エリアには、サッカーの本球場、サブグラウンド、相撲土俵、駒場体育館、テニスコート、原山市民プール、日通の野球場等のスポーツ施設が集積している。民間の活用も含め、一体としての利活用のための中長期的な計画が必要と考えるが、見解を問う。

A 駒場スタジアムエリアは、スポーツ施設を中心とした商業なども含めた街の再構築や、更なる活性化を図ることができる交流拠点の核となるエリアであり、スマート・ベニユーの考え方に沿っている。エリア内の個々の施設を評価した上で、一体的な活用の方向性の視点からも調査をする。

小柳視点 施設ごとの管理ではなくて、一体としての利活用を進めるべき。例えば、駒場体育館と原山プールの重層化により、1年中プールの使用が可能になるだけでなく、新たな施設拡充も可能になる。国が提唱するスポーツ施設と商業施設の複合した「スマート・ベニユー」構想も、最寄りの浦和駅、北浦和駅周辺の魅力の向上に寄与すると考える。



5. 荒川サイクリングロードの拠点施設(サイクルパーク)整備について

Q 荒川サイクリングロード周辺にサイクリストが集う拠点施設を作り、利便性の向上や市内への誘導、経済効果を実現するべき。また、自転車教習施設の併設も求めるが、見解を問う。

A 首都圏からのサイクリストが集まりやすい立地にもあり、拠点施設設置に適していると考える。サイクルパークのコンセプトや拠点施設として求められる機能、施設の形態などについて調査を行っている。自転車教習施設の併設に関しても、ハード・ソフトの両面から検討する。

小柳視点 一本道で長距離を走行できる荒川サイクリングロードは、サイクリストたちに好評であったが、サポート施設のなさが課題であった。本市のサポート施設の拡充への取り組みは評価する。サイクリスト達の聖地となりうる立地を、多方面に生かしていくべき。自転車施策の最大の課題とも言うべきマナーの改善にも対策が必要。

【 その他、聖火リレーの誘致、受動喫煙対策の強化、防災アドバイザー制度の改善、外国人向け医療サイトの改善などを提案しました 】

文教委員会から

1. 中学生への防災教育の推進について

Q 「釜石の奇跡」が示すように、中学生は災害時に共助の担い手になり得る存在である。専門家を活用した防災教育や、地域の防災訓練への参加促進を図るべきと考えるが、取り組みを問う。

A 4月の当初の校長会において防災アドバイザーにお願いするときの事務取扱などについて説明をし、8月には防災アドバイザーへの防災教育の協力と避難所運営訓練への児童生徒の参加について文書での通知を行った。身に付けた知識を実践に結び付けられるために大変効果的である。本年度以上の取り組みを考えている。

小柳視点 2月の代表質問で同旨の質問に教育長から積極的な取り組みをする旨の答弁があった。来年度に向けてしっかりとした取り組みの準備を期待する。実践的な防災教育の推進は、共助のみならず、自助にも有効となる。



2. 色覚チョークの導入について

Q 色覚異常の割合は、男性約5%、女性約0.2%と推計される。色覚異常のために黒板の字が判別できずに集中力を欠いたり、学力への影響が懸念される。ユニバーサルデザインの観点からも有効な、色覚チョークの導入についての見解を問う。

A 小学校103校中56校、中学校57校中32校で使用している。先生からも生徒からも好評で、特に赤い色が見えやすいとの感想がある。費用的にも変わらないので、先生方に情報提供を行い、導入に向けて各学校で検討してもらうよう考えている。

小柳視点 市内の学校の約半数が色覚チョークを使用していない。価格もほぼ変わらないなか、積極的な導入をすべき。市のガイドラインに則り、学校現場における色覚に関する配慮を、もっと進める必要がある。